

**会報 大学生協友の会**

2023年2月3日  
第37号  
大学生協友の会発行

〒166-8352 東京都杉並区和田3-30-22 全国大学生協連役員室 TEL: 03-5307-1111  
E-mail: univcoop@univcoop.or.jp ホームページ: <https://unico.itigo.jp/>

**QRコード**

さる12月3日（土）大学生協杉並会館にて2022年度会員親睦会がオンライン参加の2名を含めて24名の参加で開催されました。伊野瀬幹事長の開会のあいさつのあと、大学生協連和久井専務理事スタッフより中森専務理事からの報告「コロナ禍における大学生協の状況をベースに大学生協の近況報告がありました。

2022年供給高は、対面講義が大幅に回復したが、関連部門供給では、食堂で7割、食品で6割程度の回復率になりました。また事業総剩余では、コロナ禍以前の8割、経費も8割にとどめ、経営を維持してきました。とりわけ、大規模私学では、コロナ禍以前の登校率をベースに、経営状況の登校率をベースに、経営改革をすすめるための取り組みを継続して進めていくとの報告がありました。

同時に22年7月に5200名から、コロナ禍の学生生活に関するアンケート調査結果として、失われた大学生活へのやりきれない不満とともにオンラインでも良い授業や面接も対面となり、効率が悪い、「人間関係づくりが難しい」との意見も紹介されました。また、就職への不安として「やりたいことが見つからない」「学生生活でアピールできる活動を何もしていない」との感想が少くないことが明らかにされました。また22年9月末にて大学生協共済連を解散し、10月より「コーラブ共済連大学本部」として発足し、1月末に、残余資産を出資金比率に基づき会員生協戻しを実施し、23年度の共済加入者目標を過去最高の16万7千人をめざす取り組みを進めるとの報告がありました。

その後、参加者からの近況報告をうけて、懇親を深めました。

## 22年友の会会員親睦会開催報告



## 小冊子「戦争体験を受け継ぐ」について

原田 敏朗



恒常的に行動できる組織として「和光大学O B・九条の会」(現会員170名)が結成され、活動が進められています。

この小冊子は、2020年10月に『戦争体験を親世代から継承する』冊子の作成についての訴えの呼びかけから始まりました。それは「親世代から受け継いだ戦争体験を若い世代に受け継ぎたい」との思いと「戦争の当事者や子孫、関係者がその体験を語り続け、実感を広げる」とが大きな力になるとの考え方からでした。

私の出身大学の和光大学には、2015年9月旧安倍政権による集団的自衛権の行使容認を閣議決定(2014年7月)したことを発端にして起こつた「戦争法(安保法制)」反対運動を継続し、卒業生が



## 会員の方々かじの紹介

攻防を巡る「戦地の状況」と「戦況」などをまとめ、寄稿させていただきました。

この呼びかけに応えて、寄せられた投稿は、「戦争体験の証言」「戦争体験の書き書き」など15編にのぼりました。

この冊子にはシベリア抑留、被曝や東京大空襲、満州開拓団などが収められて、A4サイズ110頁に編集制作され、22年2月15日に400部発行され、22年11月に新聞に紹介され、完売近くなりました。

この呼びかけに応えて、寄稿された投稿は、「戦争体験を受け継ぐ」(2022年2月13日発行)と題して、「和光大学OB・九条の会連絡会」(仮称)世話人・井澤 泰(東京経済大学O B・OG九条の会)が執筆しました。

現在、法政大学(I部・II部)、東京外語大学、東京経済大学などとともに大学同窓生九条の会連絡会の結成を目指し、23年1月に結成準備会、6月に結成総会の開催を計画しています。

私は、この呼びかけを受けて、21年11月に『モートロック戦記』に掲載された父の残した手記・「通信士の奮闘」(元本部無線通信班 原田満雄)及び『モートロック戦記』の紹介と「編集後記」へのコメント、カロリン諸島トラック島南東400キロに位置するモートロック諸島の2年間の

申込先 e-mail:  
harada-t@airlinkclub.or.jp  
yogu.harada@gmail.com

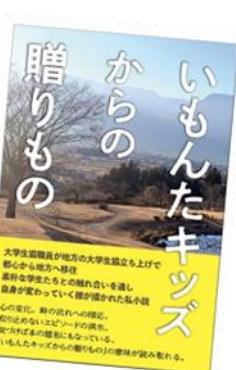
〒206-0024  
東京都多摩市諏訪2-2-2

C-414  
原田敏朗

(2) 法政大学(I部・II部)、東京外語大学、東京経済大学の9条の会への問合せ先「大学同窓生九条の会連絡会」(仮称)世話人・井澤 泰(東京経済大学O B・OG九条の会)  
e-mail:  
pah00133@nifty.com  
yashishizawa886@gmail.com

**「いもんたキッズからの贈りもの」田井健司さん  
自費出版の紹介**

木田 忠凸



信州大学生活協同組合の上

司だつた臼井健司さんから電子書籍発行の紹介と後日、献本もいただいた。この本の帯には『大学生協職員が地方の大学生協立ち上げで都心から地方へ移住 素朴な学生たちとの触れ合いを通し自身が変わっていくさまが描かれた私小説……』心の変化。時の流れへの順応。とりとめのないエピソードの洪水。気づけば本の題名についている、「いもんたキッズから贈りもの」の意味が読み取れる。』と紹介されている。

第一章 いもんた開店前、第二章 常備本の来た日、第三章 葉っぱの招待券、第四章 進級歓迎ビデオ、第五章 下宿ツアーリノキ並木、第六章 あやしい探検隊、第七章 ユリノキ並木、第八章 彦映え、第九章 路上、終章 拾ヶ堰、と9章に渡り、あとがき等で198ページに渡っている。

臼井さんは皆様ご存知のように、信州大学生活協同組合に携わってきた。この小説は、信州大学農学部で生協店舗開店、店舗運営、学生委員会活動などの体験がもとになつてい

る。数々のエピソードをフィクションに置き換え、登場人物も仮名だが、実名が想像される方も少なくないだろう。

第1章、第2章には、農学部生協設立までの事情や開店準備のエピソードが描かれている。信州大学は1年次に松本で過ごし、進級後、長野県下4地区5キャンパスに分散していく。信州大学生協も1960年に織維、1966年松本、1967年工学（長野）、1968年教育（長野）と設立し、事業されていたが、南箕輪村農学部が取り残されていた。1985年12月に生協設立となり、その事情をかんすけ君が語っている。1986年4月事業開始と運営担当として臼田店長（臼井さん）が登場して、学生といっしょに開店準備を進めていく。

第3章では事業開始直後の学生参加の店舗企画活動やパート職員の役割発揮、機関誌「イツツいもんた」発行、第4章の進級歓迎ビデオで作成、農学部特性の共同購入、進級生向けにビデオ制作活

動、環境リサイクルなど、第5章での下宿ツアーなどは農学部生協ならではの圧巻で、長野や上田でも実施していかつた。以後、省略、陸の孤島のような伊那谷で、ネットやスマホもない時代に、学生の要望や期待、不安に応えていっしょに試行錯誤しながら、学生の成長と交流、生協事業を進める過程が微笑ましく懐かしい。当時、松本キャンパスで勤務していた私には、バスで勤務していた私には、供給規模や剩余额に目を奪われがちだったが、学生といっしょに店舗や活動を作り上げていく農学部店舗報告に目を見張り、「これが大学生協か」との想いだつた。

現在、コロナ禍で学生だけではなく高齢者など各世代に「分断と孤立」が進行している。

「8050」問題などが進行する日本社会で「協同とは何か」を考える素材となるよう私には思える。

ぜひ「友の会」の皆様にもお勧めしたい。

## 友の会会報へのご意見、投稿、原稿募集中です

2023年は、6月1日(38号)、9月1日(39号)、1

月1日(40号)を計画



退職後の近況や体験、

在職時の経験や思い出など、短い近況でも結構です。

事務局までお寄せください。



退職後の近況や体験、

在職時の経験や思い出など、短い近況でも結構です。

事務局までお寄せください。

◆字数:500字~1600字(応相談)会報へのご意見は時

事務局までお寄せください。

◆送付:会報1面にある住所

かメール添付にて送付下さい。

ぜひ紙面上ではありますが情報交流、意見交換できればと願っています。

## あの時代、あの頃のこと～私と大学生協～最終章～

大学生協友の会会員(2001年入会)・仲田 秀



教職員院生委員会活動を活動課題研究委員会、事業活動検討委員会と併存させて運営する工夫をしていたが、とても厳しかった。93年のPCカンファレンスは、HELP事業活動委員会でしつかり点検討議した。その理論的整理を明確には果たせなかつたが、私はPCカンファレンスは、HELP事業活動委員会でしつかり点検討議した。その理論的整理を明確には果たせなかつた。

**（CIEC（コンピュータ利用教育学会）事務局として）**  
 （96年6月～2000年3月）

かつたが、私はPCカンファレンスとCIEC設立準備にエネルギーを割いた。地域力

ンファレンスの開催の努力をしたが、その開催が求められる地域は九州と北海道に留まつた。この地域は今も毎年開催されることとなつた。並列して動いた時期は体力的にも精神的ににもきつかった。

精神的にもきつかった。CIEC（コンピュータ利用教育学会）事務局としてPCカンファレンスの規模は設立総会時総代生協で約600名位だった。2017年の20年後700名と規模は漸増したが、質的には変化しているかもしれない。

### 7 2001年3月定年退職後に進学した大学院の頃

大学時代の友人2人にアルバイトとして加わってもらつて、

田大学理工）の準備をした。大學生協連での足掛け14年は、走り通しの仕事人生だった。60歳でまだエネルギーが残っていたこと、大学生アレンスを軌道に乗せた。そして会長の交代、事務局の交代を見定めて退職した。交代した中心事務局は15年安定して続けてくれた。そのメンバーはバイト待遇で応援に入ってくれた友人2人と私の3人で面接して、杉並会館付近から通勤できるメンバーだつた。コロナの時期を乗り切つて中心的に働いてくれた最後の一人が2021年12月に定年退職した。メンバーとは今でもコロナ禍にズームでお茶会をしてつながつてている。

PCカンファレンスの規模は設立総会時総代生協で約600名位だった。2017年の20年後700名と規模は漸増したが、質的には変化しているかもしれない。

そしてまず、母校の先輩から福武直を客観化するテーマを指摘され、第一の私の仕事を考へ、「大学生協と福武直」を修論のテーマとした。

修論を書き終わつて物足りなかつた自分がもう一步進めてものになるかどうかを相談す

るために尋ねたのは、福武先生の一番弟子と言われた人だつた。彼は一時東大生協の理事をやつたことのあるあこがれの人であった。彼は修士の社会人入学を推薦してくれた人でもある。修論はこれでいい、しかし、博論はきついよ。でもやつてご覧といつてくれた。

それから、大学の先輩、地域の英語教師の先輩につき合つてもらいながら苦手な英語を勉強し3浪をし、これでダメだったらあきらめようと思つて受験した3年目に法政大学大院に入学出来た。その間に地域の9条の会、教育問題を考える集いと調布武藏境通りの拡幅工事の住民運動に関わった。

法政大学に入る時、方法論はどうするのだと詰められ、入学してから方法論探しに2年余りかかつた。

その間に6・8才が限度という海外協力隊の説明会にも顔を出し、自分の語学力では危険が一杯の国にしか行けず、娘は夢に過ぎないことを理解した。そこで危機的状況への手助けと言られて、国内ボランティアをすることにした。

東京高齢協のサポートトバイオトを一年半行つた。

そんなこんなで4年が経過し、指導教官の定年前に提出すべく、自分の頭で考え、文章をひたすら書いて製本して提出し、酷評をうけた。繰り返しながら、論文の修正に取り掛かつた。一向に学会誌投稿が決まりぬところ、ある編集長からどうかとの提案があり、数値



とにかく発表してしまつたらどうかとの提案があり、数値部分を大院紀要に掲載した。その時、満期退学の期限により、満期退学し、大院紀要への投稿を2回続けて発行しきりをつけ、喜寿を迎えた。

文集を出したい！とお願いして、論文集「大学生協の持続的発展について」理事会のリ

ーダー・シップと経営業績」を発行することとなり、図書館と各大学生協へ寄贈できた。

学生委員会OBのザクロ会と

いう名で発行カンパも加えて

もらひ、論文集発行に当たつては、「仲田さんの考えている

ことは私が一番わかっている」

と手を挙げてくれた山田謙次

さんが面倒な編集を引き受け

てくれ、かつて東大生協の組

織宣伝部室で一緒に仕事をし、

早世した真知子さんの弟・矢

野智さんが事務局を勤めてく

れた。皆さん！本当にありがとうございました。（完）

## 2022年度第1回幹事会開催報告

日時…2022年12月3日  
(土)

場所…大学生協連 杉並会館  
出席…伊野瀬 宮寺 倉橋 説田

釜田 塩谷 平田 和久井 茂垣  
柴田 中村 大久保 (以上幹事)  
古越 和知 (以上会計監査)

☆協議事項☆以降を協議確認  
①2023年3月末退職者への友の会入会取組について  
②2023年友の会総会特別企画検討について

③友の会第37号会報 (2023年2月1日発行) 計画

④第12回会員親睦会運営  
⑤2023年度大学生協友の会総会日程について開催日7月8日(土) 11時開会予定

⑥親睦会日程について

開催日…2023年12月2日(土) 14時開会予定

☆次回幹事会(単独開催)  
開催日…2023年4月8日(土) 15時開会予定

会員の皆さん、回想記事連載ご愛読ありがとうございます。仲田さん貴重なご寄稿ありがとうございました。

# 岸田政権の「軍拡増税」閣議決定の撤回を！

2023年1月5日  
大学生協友の会幹事会

岸田政権は、昨年12月16日に「国家安全保障戦略」など安保関連三文書を改訂し、翌週23日過去最大となる6兆8千億円（前年度比26%増）の防衛費を含む2023年度予算案を閣議決定しました。

これら二つの閣議決定は、歴代政権が戦後一貫して否定してきた敵基地攻撃能力（反撃能力）の保有、防衛予算の国内総生産（GDP）比2%への倍増など「武力による威嚇と行使を国際紛争の解決手段としない」旨を明記した憲法9条を貫く「専守防衛」とは相容れないものです。

またこの閣議決定は、2014年7月に安倍元首相の「集団的自衛権の行使容認」と軌を一にした岸田政権の常套手段です。しかも集団的自衛権の行使に不可欠な「抑止力」としての敵基地攻撃を可能とし、日米安保条約を根拠に米軍指揮の下で自衛隊を参戦させる安全保障政策に他なりません。

さらにこの閣議決定は、2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻を契機に東アジアにおける危機意識を煽り、日本周辺で続けられてきた日本海、尖閣、台湾などの「緊張」報道を巧妙に利用し、国民の戦争への不安と恐怖心に付け込んだものであり、国民的な論議を経たものではありません。

この敵基地攻撃能力（反撃能力）は、他国への武力攻撃によって、第一弾の攻撃を阻止できたとしても、仮想敵の攻撃基地全てを無力化しない限り、双方の国の攻撃が繰り返されるだけであり、その実際は、ウクライナ戦争を見れば、明らかです。

また日本に54基ある原発被弾による被曝は、一基さえ福島原発事故の数百倍に及ぶ惨禍をもたらすと予測されます。エネルギー資源と食糧資源の自給率の低い日本に求められることは、世界平和とグローバルな国際環境であって、特定の仮想敵国を想定した先制攻撃も辞さないとする戦争準備ではありません。

またGDP2%防衛費のために企業の賃上げマインドを損なう法人税、二重課税でもあるたばこ税などの増税は言うに及ばず、いわんや東日本大震災と福島原発事故からの復興を目的とする復興所得税の転用や建設国債の起債などももっての外です。

私たちは、この閣議決定を撤回させ、戦争を国づくりの柱にした戦前の日本への回帰に走る岸田政権の軍拡増税をやめさせ、専守防衛を基本とした平和外交をすすめ、核兵器禁止条約批准、原発ゼロ政策推進等の取り組みを進めるように訴えるものです。

戦争は、抑止力で止めることができません。また死の商人を除けば、戦争が誰をも勝者としないことも自明です。  
(完)

【ご紹介】：大学生協友の会とは、全国の大学生協に在職した役職員及びOBOGが任意に会員となり、大学生協在職経験者の誰でもが参加できる親睦会です。

## 【「生協だれでも9条ネットワーク」からのご案内】

「日本を戦争する国にしないために！」学習と討議のつどい

日時：2023年2月11日（土）14:00～16:00

場所：主婦会館プラザエフ5階会議室（JR四ツ谷駅麹町口徒歩1分）

講師：矢野 裕（全国革新懇談会代表世話人、元・狛江市長4期など）

連絡・申込先：世話人藤原一也：kazuya@yk-ms.com